

企業の即戦力に

凡愚

飲食店の経営と仕出し事業を手掛ける(株)凡愚(本社・舞鶴市北田辺、水谷幸夫社長)は、特産となるオリジナル加工食品の開発・販売などのスペシャリストを採用。商圏が全国に広がる加工食品部門を事業の柱の一つにし、業容拡大を狙う。

きつかけは舞鶴市のふるさと納税業務を担う地域商社「HOUKO」(同市平野屋)の依頼だった。同社は寄付額の増加と市内事業所の売り上げアップに向け、企業とともに返礼品となる特産品の改良と開発に取り組んでいる。水谷社長(58)は、同市のふるさと納税業務はまだまだ発展の余地がある

と判断し、同社と手を組んで新商品開発に注力した。ただ、来店客を待つ飲食店はこの分野の商品開発は不得手という。「何から取り組んでいいのかわからなかった」と水谷社長は振り返る。

そこで、かつてふるさと納税のポータルサイト会社を経営し、全国で企業の商品開発、販路拡大のサポート業務などを手掛ける経営者を副業人材として採用。昨年7月から1回、地域商社の担当者らも交えたオンライン会議でふるさと納税の仕組みや売れ筋商品、販売ノウハウなどを学んだ。



加工食品の開発を進める凡愚の食品工場と水谷社長(舞鶴市南田辺)

企業成長へ組織改革 見直し担う右腕人材で

松林

で、HOUKOの担当舞鶴にはカニがむいて者によると、「これまである状態の商品はなる」(岩本)

更なる企業成長に向けて組織の改編に取り組んだ松林社長(宮津市由良)



燃料を届ける配送事業に力を入れている。近年では配送事業で

ガソリンスタンド経営などの燃料販売業、(株)松林(本社・宮津市由良、松林寿寿社長)は、事業拡大に応じた組織の改編、そして更なる企業成長に向けた改革を担う右腕人材を副業人材に求めた。同社は宮津や京都市内などでガソリンスタンドを経営するほか、各地の工事現場などに直接タンクローリーで

取引のある大手ゼネコン会社などの関係性をベースに全国100社を超える協力店のネットワークを生かして安全で確実に燃料配送を行う商社部門も好調。事業規模が拡大して社員数も増えてきた。そこで、今後更に事業を継続的に発展させるため会社組織を見直すことに、「フラット型

組織からピラミッド型組織へのシフト」を掲げ、中長期的な視点を持つキャリア人材を副業人材に求めた。社員それぞれが横断的に業務を担う体制から企業発展の基盤となる効率的運営が可能な組織改革を目指した。

東京の広告代理店に勤務し、子会社の社長も歴任した人材を活用。Zoomなどを使ったウェブ会議で社の課題や組織づくりなどを話し合い、松林社長(44)のビジョンを共有。注力部門を設定し、プロジェクトリーダーとなる戦略的人材の配置、必要部署の設置など、組織の改編に取り組んだ。

社員全員に共有した長期ビジョンは「年商100億円企業となり、新たな雇用を創出し、地元から必要とされる企業を目指す」。これからの会社を担う人材を育成することも命題だ。

松林社長は「強い組織となり第3創業のきっかけにしたい。社の存在意義を明確にし、仕事を通じてより社会に貢献できる会社を目指す」と語る。(岩本)

加工食品で業容拡大 オリジナル商品を開発

飲食店の経営と仕出し事業を手掛ける(株)凡愚(本社・舞鶴市北田辺、水谷幸夫社長)は、特産となるオリジナル加工食品の開発・販売などのスペシャリストを採用。商圏が全国に広がる加工食品部門を事業の柱の一つにし、業容拡大を狙う。



加工食品の開発を進める凡愚の食品工場と水谷社長(舞鶴市南田辺)

幅広い要望に対応

デザインや印刷を委託

絆工房

印刷業の(株)絆工房(本社・豊岡市日高町浅倉、笠原泰蔵社長)では、デザインや印刷の技術を持つ副業人材を活用し、幅広い需要に応えている。

同社は白生地インクを浸透させる昇華プリント技術を得意とし、スポーツ用ユニフォームなどを製造する。ユニホームだけでなく様々な商品製造の依頼を受けるが、午

頼も寄せられることもあり、多用途の要望に対し、社内の人材だけでは対応が難しいケースもあることから、副業人材を活用している。例えば、経営担当として採用している女性社員はデザインのスペシャリストでもあり、午前中は会社に勤務し、午後からは自分でデザイン

の仕事をしている。同社にもデザインの担当者はいらるが、必要があればこの女性にデザイン業務を外注しているという。また、シルク印刷の得意とし、自分で工場を設けて印刷の仕事を請け負っている男性にも、必要に応じて業務を委託している。同社は受注したデザインを印刷するだけで



様々な人材を活用して顧客の要望に応える絆工房の笠原社長(豊岡市日高町浅倉)